

地域の人が集まるホットな場所「紙ふうせん」

野田市にある「紙ふうせん」は、1995年リサイクルショップの設立からはじまりました。その後、消費材を中心とした国産素材と地場野菜を使ったお弁当販売やレストラン、便利屋、みんなの食堂（子ども食堂）の運営など気軽に立ち寄れるホットな場所として地域に根ざした活動を展開してきました。

<障がいのある人もない人も一緒に働く場>

2019年1月には、社会的に弱い立場の方、障がいを持っている方など、誰とでも「共に働く」場をつくりたいという思いから、就労継続支援B型事業所をスタートしました。

この紙ふうせんにはさまざまな仕事があります。有機ミックス粉やデポーでも販売している「紅大豆」の袋詰めやシール貼り、レストランの接客や調理補助、リサイクルショップの品物の整理など。だから一人ひとりの得意なこと、興味のあることを大事にして、その人のペースに合わせて、働いたりチャレンジすることができます。何より、ここでは障がいがある人もない人も一緒に働き、コミュニケーションをとることをとても大切にしています。

今回お話を伺った管理者の宮野さんがおっしゃる「ただ作業をやって帰るだけの事業所にはしたくない」その思いは、ここに来て働く皆さんの顔を見るとすぐに納得できました。

今回のエコロ福祉助成を受けて、作業所のある2階に上がる階段に手すりをつけることができました。段差が大きいため手すりがないと危険な階段が安心してのぼれるようになったと、とても喜ばれていました。



<私たちにできること>

今回エコロ福祉助成に応募したのは、もちろん階段の手すりをつけたいということですが、この活動をいろいろな人に知ってほしいという思いからと伺いました。

今まで何となく知っていたことも、話を聞いてみて分かったことがたくさんあり、何より「ここで地域の人と辞めない約束をして続けてきた」とおっしゃるその思いが胸に響きました。

そして私たちにできることは何でしょうか…

まずは知ること、見学も大歓迎とのことです。

今回いただいた日替わりランチは心も体も喜ぶやさしい味でした。

デポーで販売している紅大豆もここで袋詰めされていることを知ると嬉しくなります。



リサイクル品の引き取りもしていて、近隣の組合員から素敵なものが届くことがあるそうです！

地域の人はもちろん、地域の人ではなくてもさまざまなかたちで参加できるのではないのでしょうか。

<地域の人が元気になれる街づくり>

ここには地域の人が集まり、おしゃべりをしたり、食事をしたり、時にはスタッフはお母さんになり友達になっています。そしてここではさまざまな人が自分らしく、お互いを尊重し、楽しく働いています。

福祉委員 理事 田中 寛子

